

青☆組
ao-gumi



Theater company ao☆gumi, profil 2009

■青☆組 とは？

青☆組は 2001 年に桐朋学園大学演劇科の卒業生を母体に結成され、その後、劇作家・演出家の吉田小夏が主宰するソロプロジェクトとして活動してきました。

2006 年春からは、“青年団リンク 青☆組”としても活動し、プロデュースユニットとして公演活動を続けています。

前衛性や実験性が強い小劇場の世界の中で、あえて普遍性を重視し、現代的でありながらもどこか日本的でホッとする味、滋養があって飽きのこない、和食のような作品作りを目指してきました・・・特に劇場ならではの肉声による日本語の音にこだわり、言葉の繊細な味わいを大切にしています。

緻密なプロットによる戯曲と、糸を紡ぐように丁寧な演出が織りなす対話劇には定評があり、「4 年間に渡る、ある一家の大晦日の夜」など、終わらない日常の一部を鮮やかに切りとり、一見平凡な人々に独特の視点で光をあて、人生の儚さや人間の逞しさを、キラキラと舞台上に浮かび上がらせます。

人間の営みへのあたたかい眼差しから生み出される作品群は、観るものを選ばず、その瑞々しく繊細な劇世界は各方面で注目され、現在までに発表された作品のうち、6 つの作品で各賞を受賞しています。



■上演の軌跡

- 2002 年 07 月 『うちのだりあの咲いた日に』（麻布 die prätze）
- 2003 年 03 月 番外公演＜若手演出家コンクール＞『さくらさくら』（下北沢「劇」小劇場）
- 12 月 青年団若手自主企画 vol. 12 『月とスプーン』（小竹向原・アトリエ春風舎）
- 2004 年 03 月 番外公演＜若手演出家コンクール＞『初雪の味』（下北沢「劇」小劇場）
- 07 月 『七つめの星』（渋谷 GALLERY LE DECO）
- 2005 年 07 月 青年団若手自主企画 vol. 23 『初雪の味』（小竹向原・アトリエ春風舎）
- 2006 年 01 月 こまばアゴラ劇場提携公演『時計屋の恋』（こまばアゴラ劇場）
- 4 月 青年団リンク×山小屋 合同企画『初雪の味』（広島市横川町・ギャラリー山小屋）
- 2007 年 07 月 青年団リンク 青☆組『おやすみ、枇杷の木』（小竹向原・アトリエ春風舎）
- 12 月 『Million blue #01』（小竹向原・アトリエ春風舎）
- 2008 年 01 月 こまばアゴラ劇場主催公演『うちのだりあの咲いた日に』（こまばアゴラ劇場）
- 2008 年 12 月 『雨と猫といくつかの嘘』（小竹向原・アトリエ春風舎）

■ 劇評

『おやすみ、枇杷の木』 劇評より

優しい人が優しい視点で日々を観測すると、こんなに温もりのある風景が生まれるんだなあとしみじみしました。隣の人の体温に触れるような安らぎとドキドキを感じつつ、この家族の生き様に立ちあつた気分。(原文より抜粋)

<園田 喬「演劇ぶっく」129号 2007年>

『初雪の味』 劇評より

ある家族の大みそかの情景を、四年間にわたり定点観測するようにつづる劇である。

(中略)・・・しかし、それらの出来事を確かに見届けた、という実感は残った。ありふれていて意識に上がらない、いわば、“見えない”存在としての家族を可視化する。小津安二郎監督の映画にも似た、そんな効能を持つ佳作だった。(原文より抜粋)

<道面雅量「中国新聞」206年>

『月とスプーン』 劇評より

・・・この芝居は、甚だユニークで吉田の並々ならぬ才能を感じさせた舞台だった。(中略)

ただ、作者はショッキングなシーンを狙っているわけではない。

芝居の大部分は日常の瑣末な会話や姉が中学の時に書いた童話の話で推移していて、そういう日常のさざ波が立つ中のできごとで、殊更の伏線をはったのでもない。

しかし今は別れた愛人とそっくりの妻と散歩している男、多分一生を共に過ごすだろう夫婦のイメージは強烈に残る。

へたな寓話や教訓になりかねない話だが、作者は主題化せずに記憶から消し難い凝縮されたイメージだけを残した。演劇の力を本能的に知っている才能を感じさせた舞台だった。

<江森盛夫「シアターアーツ」2004年>



■ 主宰者プロフィール



吉田 小夏 - Conatsu Yoshida -

- 劇作家・演出家・俳優
- 青年団 演出部所属
- 青☆組 主宰
- HP : <http://www.aogumi.org>

■ 略歴

1976年◎7月生まれ。横浜市出身。桐朋学園大学芸術学部演劇科卒業。

1995年○青山演劇フェスティバル『転校生』（平田オリザ・作/演出）で、初舞台。
俳優として演劇活動をはじめ。

1996年○桐朋学園大学芸術学部演劇科に入学。蜷川幸雄、如月小春、越光照文、等に師事。

2001年○桐朋学園の卒業生を母体に、演劇ユニット「青☆組」を結成。
これを機に、劇作・演出の活動も始める。

2002年○初の長編戯曲『うちのだりあの咲いた日に』で、第8回日本劇作家協会・新人戯曲賞に入賞。

2003年○日本演出者協会主催「若手演出家コンクール2002」にて、『さくらさくら』で、優秀賞を受賞。
○青年団に入団。

2004年○日本演出者協会主催「若手演出家コンクール2003」〈作/演出部門〉の2次審査で、『月とスプーン』で優秀賞を受賞。同コンクールの最終選考にて、『初雪の味』で審査員特別賞を受賞。
○『時計屋の恋』が、第10回日本劇作家協会・新人戯曲賞に入賞。

2005年○中国・上海で行われた「アジア女性演劇人会議」に、永井愛氏と共に参加。
○青年団の劇団内ユニット、〈青年団リンク〉としての活動を開始。

2006年○広島県横川町で、山小屋ギャラリーとの共同制作により『初雪の味』で初の旅公演。
○青年団国際交流プロジェクト『職さがし』（作：ミシェル・ヴィナベール
翻訳：藤井慎太郎 演出：アルノー・ムニエ）にて、演出助手をつとめる。
○インドネシア・ジャカルタにて開催された、第7回「国際女性脚本家会議」に、飯島早苗氏と共に参加。

2007年○『おやすみ、枇杷の木』で、第13回日本劇作家協会・新人戯曲賞に入賞。

■ お問い合わせ



- <http://www.aogumi.org>
- office@aogumi.org
- 03-3469-9107 (劇団 青年団)



マスコミご担当者の皆様へ

青☆組の各公演や活動内容への取材等ございましたら、上記の連絡先までご連絡ください。こちらから伺い、詳細をご説明させていただきます。

舞台写真のご提供、稽古場の撮影や取材もお受けいたしますので、ご相談いただければと存じます。吉田小夏への取材やインタビューをご希望の際も、上記のご連絡先までご連絡ください。